

## 福島県立大笹生支援学校 (福島県福島市)

特別支援学校の生徒が  
JAと連携して農業体験しています。

**概要** 1979年に創立。生徒数の増加に伴って校内圃場がなくなり、農業体験が難しい状況になりました。しかし、2020年から「将来の職業選択の幅を広げるための農業の魅力の発信」や「農業体験といった郊外活動を通じて食の大切さや流通などを総合的に学習するとともに、

生徒の新たな可能性を広げる」ことを目的に、JA福島中央会と連携して農業体験を実施しています。農家に向いて長ネギや長なすの収穫、収穫後の調製作業、包装作業を行っています。



**成果** **農林水産業**

- 農業従事者に特別支援学校(知的障害者)の生徒と関わってもらうことで、特別支援学校の生徒への理解が深まり、将来の地域の農業労働力になることが期待できます。

**障害者等**

- 野菜の収穫から調製までの作業を実際に体験することで、農業への興味・関心が高まりました。
- 卒業後に農福連携に取り組む福祉サービス事業所の利用を検討している生徒にとって、農作業を知る機会になっています。

## 帝人ソレイユ株式会社 我孫子農場 ポレポレファーム (千葉県我孫子市)

特例子会社として  
有機野菜、食用バラ、胡蝶蘭を栽培しています。

**概要** 2019年に帝人株式会社の100%出資の特例子会社として設立。ハンディキャップのある方々にとって「やりがいと働く楽しさ」が溢れる職場づくりを目的に事業を始めました。

自社農園(地元農家から農地を借り替えて経営主体を変更)で、付加価値の高い有機野菜、食用バラ、胡蝶蘭の生産と販売を行っています。



**成果** **農林水産業**

- さまざまな障害特性のある方々が農作業において戦力となっていることが示されています。
- 大手企業ならではの役員・社員の応援・支援による販売モデルが確立されつつあります。

**障害者等**

- 支援員が張り付かないことかえって社員が成長し、生産性・品質が向上することが分かってきました。
- 精神障害メンバーが発達・知的メンバーを指導・育成することで、重度メンバーも含む適材適所のチーム作業が実現しています。

**地域**

- 策定中の2022年度以降の我孫子市の中長期計画の中に農福連携が盛り込まれることが確定しました。
- 胡蝶蘭が我孫子市ふるさと納税返礼品に登録されており、財政面で市を支えています。

## 社会福祉法人 進和学園 しんわルネッサンス (神奈川県平塚市)

**地域農家と連携して6次産業化に取り組み、Win-Winの関係を構築しています。**

**概要** 2006年に開設。2013年に6次産業化総合事業の認可を受け、自社ブランド「湘南トマト工房」を立ち上げました。近隣農家や地元JAから規格外トマトを購入し、ジュースやジャムなどを製造しています。

個人農家を中心にOEMを受託しており、食品加工に特化することで、農家との間で互恵的な関係を構築しています。



**成果** **農林水産業**

- 処分されていた規格外トマトを当施設が購入することにより、農家の収入が上がりました。
- OEM商品を開発する新規の農家が増え、受託加工件数が増えました。

**障害者等**

- 生産した商品が一般の商品と同一に扱われていることで、自信と働く喜びにつながっています。
- 年々収入が向上し、障害者の賃金と工賃が向上しており、自立につながっています。

**地域**

- 地域のイベント、マルシェなどでの販売依頼が増え、地域交流が活発化しています。
- ネットワークの交流により、加工品の相談をはじめ、コラボ商品の開発も実現しました。

## 社会福祉法人太陽福社会 菜の花作業所 (和歌山県御坊市)

**水福連携で県内初の自然塩づくりを通じて、地域との連携に取り組んでいます。**

**概要** 1985年に設立。2020年から、本格的な農水福連携を始め、障害者12人が釜焚き自然塩づくり作業に取り組んでいます。塩づくりの時にできる(多種類のミネラルを含む)天然にがり希釈して農産物に散布する「にがり農法」を実施しています。漁協の協力で海水をポンプで汲み上げ、燃料は地域から持ち込まれる廃材を利用者が薪割機で

薪を割って利用。コロナ禍に苦しむ地域の飲食店と連携し、この塩を調味料とした焼き鳥セットを販売しています。胡麻製品販売会社「和田萬」から依頼され、隣接した荒廃農地を利用して、利用者の農業活動として胡麻栽培を行っています。



**成果** **農林水産業**

- 釜焚き自然塩づくりは県内初だったので、他の事業者にも塩づくりを伝授し、県内に取組が拡大しています。
- 将来的には製塩設備を増設して干物などの水産加工品を製造することで、地域漁業の維持に貢献することを計画中です。

**障害者等**

- 自然と接する塩焚き作業は、利用者にとって精神的に良い影響を与えており、鬱であった人が良好な状態まで回復し、福祉関係等の一般就労へ就職する人も出ています。
- 定年退職した高齢者4人も手伝っており、生きがいへとつながっています。

**地域**

- 水福連携に取り組んだことで、行政や福祉関係者が多く訪れるようになり、実践事例など話す機会が増えました。
- 大阪などの都市部からの見学者が増え、塩焚き体験等の要望もあり、都市部との交流も進んでいます。

# 社会医療法人正光会 さんさん牧場 (島根県益田市)

**馬事文化を継承し、  
 障害者のコミュニケーション向上を図っています。**

**概要** 2019年に設立。20㎡のハウスで、ミニトマト、きゅうり、細ねぎなど一般野菜から、ピーツ、食用花など、地域のレストランに向けた野菜、バタフライピー、グラスジェムコーンなど珍しい作物を特産化目指して栽培しています。引退した競走馬を受け入れており、コミュニケーションが

苦手な障害者にとって、馬との関わりは意思を伝える練習になっています。近隣農家に馬糞堆肥を提供しています。2020年度の時給は845円でした。



**成果** **農林水産業**

- 生産したバタフライピーのハーブティー「高津川マジックアワー」が、特産品として注目されています。
- 取引している卸売業者は地産地消を推進しており、生産者として地域農業に貢献しています。

**障害者等**

- より高度な作業ができる障害者は時給を上げ、リーダーとしての責任感を持って作業を行っています。
- 中学時代に放課後デイサービスに通っていた高校生が、牧場での就労を希望しています。

**地域**

- 馬事文化を継承しており、地域から「馬のいる風景がまた見られて嬉しい」との声があります。
- 観光牧場として、地域の憩いの場や観光地となり、地域内外からの来客が多くなりました。
- 馬に野菜が届く引退馬支援のふるさと納税の申し込みが36件あり、地域貢献につながっています。

2020

**ノウフク  
 アワード**

**NOUFUKU AWARD  
 2020**

**ノウフク・アワード2020 概要**

**ノウフク・アワードとは**

ノウフク・アワードは、全国で農福連携に取り組んでいる団体・企業や個人(以下「団体等」という)を募集し、農福連携の素晴らしさを発信する優れた取組を表彰するものであり、こうした表彰を通じて、国民的運動として農福連携推進の機運を高め、農福連携の全国的な展開に資することを目的に2020年に設立されました。

**審査基準**

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティを「耕すみんなを応援する」とし、これに連動させ、ノウフク・アワード2020では「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に設定し、多様な視点・切り口から評価を行うこととしました。

**応募件数**

応募期間については、令和2年9月16日(水)から令和2年11月17日(火)までとして、ノウフクWebなどを通じて広く応募し、全国から195団体の応募がありました。

**各賞の選定経過**

各賞の選定に当たっては、令和2年12月21日に審査委員会を開催し、各賞を選定しました。

グランプリについては、1972年から農福連携に取り組み、障害者だけでなく、触法障害者等、生きづらさや働きづらさを抱える多様な人々を受け入れ、農福連携のトップリーダー的存在でもある「社会福祉法人白鳩会 花の木農場」を選定しました。

また、審査員特別賞については、「人を耕す」の部として、長崎県の「社会福祉法人南高愛隣会」を、「地域を耕す」の部として、奈良県の「社会福祉法人青葉仁会 あおはにファーム」を、「未来を耕す」の部として、「株式会社ウイズファーム」をそれぞれ選定するとともに、中間支援組織として、農作業の施設外就労のコーディネーターを行うなど、農業サイドと福祉サイドをマッチングを行っており、モデル的な取組として、農福連携の基盤づくりに貢献している「松本ハイランド農業協同組合」、「香川県社会就労センター協議会」、「全国農業協同組合連合会大分県本部」、農福連携の潜在的な可能性を感じさせる取組であり、農商工福連携の取組としても評価できる「特定非営利活動法人HEROES」についても審査員特別賞として選定しました。

**受賞一覧**

**グランプリ**

社会福祉法人 白鳩会 花の木農場 (鹿児島県南大隅町)

**審査員特別賞「人を耕す」**

社会福祉法人南高愛隣会 (長崎県雲仙市)

**審査員特別賞「地域を耕す」**

社会福祉法人青葉仁会 あおはにファーム (奈良県奈良市)

**審査員特別賞「未来を耕す」**

株式会社ウイズファーム (長野県松川町)

**審査員特別賞**

松本ハイランド農業協同組合 (長野県松本市)

特定非営利活動法人HEROES (京都府京都市)

香川県社会就労センター協議会 (香川県高松市)

全国農業協同組合連合会大分県本部 (大分県大分市)

**優秀賞**

一般社団法人松島のかぜ (宮城県松島町)

社会福祉法人こころん (福島県泉崎村)

埼玉福興株式会社 (埼玉県熊谷市)

認定・特定非営利活動法人UNE (新潟県長岡市)

特定非営利活動法人ピアファーム (福井県あわら市)

株式会社シルクファーム (鳥取県米子市)

社会福祉法人喜和会 障害者支援施設太陽の里 (島根県出雲市)

## 社会福祉法人 白鳩会 花の木農場 (鹿児島県南大隅町)

### 農福連携のパイオニア

1972年から障害者の働き場所の確保のため農業に取り組んできた農福連携のパイオニアです。45%の広大な敷地で、障害者だけでなく生きづらさや働きづらさを抱える人が、農畜産業や食品加工、レストランに携わっています。



#### 概要 広大な大地で多様な人びとが農業従事

本州最南端の町・南大隅町で、障害者とともに農業をおこなってきました。知的障害者、精神障害者、後天性の難病患者やシングルマザー、触法障害者や 養護学校の非行者、他施設の処遇困難者など、生きづらさや働きづらさをかかえる多様な人びと

140人が働いています。20種類以上の野菜等の生産、牛や豚などの飼育・解体・精肉・食肉加工、パン製造、レストランの接客に至るまでほぼ全ての作業に障害者が携わっています。地域課題である「耕作放棄地の借り入れ」は15.6%です。



#### 成果 花の木農場は、地域のサテライトに

##### 農林水産業

- 多品目栽培により年間を通して農作業できるようになり、作業種目が20種類以上に増えました。
- ASIAGAPの取得によって、農場内の障害者の労働安全や労務管理を徹底。有機農業にも取り組み、有機JASを取得しました。

##### 障害者等

- 2015から19年度で一般就労につながった障害者は4人。経済的に自立している障害者も多くいます。
- 障害者の農業技術が高まっており、お茶を収穫する乗用摘採機、茶園を管理する防除機などを操作することができる障害者も多いです。

##### 地域

- 農場内の2つの直売所兼レストランは地域の交流拠点となっており、交流人口にも寄与しています。
- 地域の交流拠点であるゲストハウス等とコラボし、地域住民×花の木農場で「地域のサテライト花の木農場」作りプロジェクトを開始しました。



#### 農カントリー、農ライフ

社会福祉法人白鳩会  
 理事長 中村 隆一郎

今から20年以上前の話ですが、「園芸療法」という言葉が一部の関係者(福祉・医療・農業・地方行政など)の間で注目されたことがありました。ご存じの方も多いかと思いますが、植物が持つ癒し効果や成長のダイナミズムを人間の心身の健康に活用していこうというものです。当時の白鳩会もその研究プロジェクトに参加する機会があり、海外先進地視察や書籍の共同執筆を私自身が経験しました。またそこで得た人脈によって、花の木農場のロゴマークとブランディングが生まれるという副産物にも恵まれました。

ところで多くの方が言われるように、福祉施設が農業に取り組むこと自体はさほど珍しいことではありません。ノウフク・アワード初代グランプリの栄誉をいただいた際も、(園芸療法の頃から農業の多面性を見てきた私にとって)素晴らしい全国各地の取組を前に思わず赤面しそうになりました。と同時に、もしかしたら「花の木農場=ノウフク」としての活動のエッジを際立たせるには絶好のタイミングかもしれない…とも感じました。つまり、収穫や加工に重きを置いた生産活動だけが農業の役割なのではなく、老若男女を問わず多くの人々が行き交う農的な暮らしの場が重要なのではないかという仮説への挑戦です。

某音楽販売店のキャッチコピーに「NO MUSIC, NO LIFE」というものがあります(音楽のない生活なんて! みたいな感じでしょか?)。私のような無類の音楽好きにとって素晴らしく共感できるフレーズです。翻って、花の木農場はさらに多様性のある農場を目指し、「農カントリー、農ライフ/農村のない生活なんて!」とここに主張させていただきます。



## 社会福祉法人 南高愛隣会 (長崎県雲仙市)

### 在来種「対馬地どり」を守る

1977年から農福連携に取り組み、知的障害者だけでなく、触法障害者も活躍する事業所です。企業や県と連携した在来種「対馬地どり」の飼育など、地域農業の維持・発展や地域活性化に貢献しています。



#### 概要 和牛の飼育やアスパラガスのハウス栽培にも取り組む

地元JAと連携して繁殖牛30頭の飼育と60㎡の畑で野菜栽培を展開しています。企業や県と連携した「対馬地どり」2,000羽の飼育にも取り組み、都市部の高級ホテルへ販売しています。その生産・消費の拡大を目的に、飼料提供元の長崎県養鶏農業協同組合らと「長崎対馬地どり振興協議会」を立ち上げ、飼育

技術の普及・向上に努めています。農繁期の人手不足解消のため農家へ農援隊を派遣。また工賃向上を目的に10年前からアスパラガスの本格的なハウス栽培を始めました。



#### 成果 秋の収穫祭をきっかけに地域連携深める

- 農林水産業**
  - 地域で「対馬地どり」と和牛の種の保存に貢献し、優良な受精卵の提供に取り組んでいます。
  - 農援隊の派遣は、2016年に年間30日ほどでしたが、18年には218日に増えました。
- 障害者等**
  - 平均工賃が年々増加しています。地域の農家から感謝され、自己有用感とモチベーションが高まっています。
- 地域**
  - 「対馬地どり」は長崎県庁レストランの特別メニューで採用され、好評を博しました。
  - ニーズが高まり派遣農家数が増えています。2016年度は8件でしたが、20年度には27件になりました。
  - 毎年地域住民とともに秋の収穫祭を開催し、親睦を深めています。
  - 収穫祭を機に、地域での役務作業・防災活動や救急講習の開催へと発展しました。

## 社会福祉法人 青葉仁会 あおはにファーム (奈良県奈良市)

### 地域密着型ノウフク

農業だけでなく食品加工、レストランや直売所にまで障害者の活躍の場を広げています。急速に耕作放棄地が拡大する中、地元農家の指導のもとハーブ栽培などに取り組み、持続可能な地域づくりを進めています。



#### 概要 農産物・加工品は直轄のカフェへ全国へ

2019年4月に農福連携を通して地域の再生を図るべく、あおはにファームをつくり、8割の耕作を始めました。50人の障害者がブルーベリー 2,000本の栽培管理・運営を担っています。地域の耕作放棄地では米や30種類超の野菜、果樹を栽培しています。県内で受け継がれてきた大和当帰、大和橘を含みます。

農産物は法人内6カ所のカフェ・レストランの食材として提供されるほか、企業からの受託製造もする加工部門で多岐に活用され、全国のスーパーや物産展へ出荷されます。どの事業所も主力は障害者です。



#### 成果 農家生活体験など事業を多方面へ広げる

- 農林水産業**
  - 通年で農作物を栽培することで、農作業を安定確保し、農産物を毎日出荷しています。
- 障害者等**
  - 人力でできることと、機械が必要なことなどを細かく分け、それぞれの個性に合わせて割り当てています。
  - 支援学校等を卒業する障害者を受け入れるよう、毎年事業を拡大しています。
- 地域**
  - 農業の衰退・高齢化の進む中山間地域で、レストランやマルシェ、商業施設「満天ひろば」を開いています。
  - 農家生活体験を提供するなど観光振興にも努め、地域全体では年間7万人が訪れるまでに。
  - 農業を着実にやり、地域住民との信頼関係ができた結果、地元の高齢農家から農地借用や購入の依頼が多く寄せられています。持続可能な共生社会を目指しています。

## 株式会社 ウィズファーム (長野県松川町)

### ノウフクJAS第1号

ノウフクの社会的認知向上や販路の拡大を目指し、ノウフクJASの認証を受けた初めての事業者です。県外の販売会への参加や講演活動など、その取り組みは先進性や独創性に富んでいます。



#### 概要 りんごなど多品種栽培で作業を細分化

ノウフクの社会的認知向上や販路の拡大を目指し、ノウフクJASの認証を受けた初めての事業者です。県外の販売会への参加や講演活動など、その取り組みは先進性や独創性に富んでいます。「株式会社ひだまり」から知的障害者、精神障害者、身体障害者

を15人受け入れています。りんごやぶどうなど5種の果物のほか、6種類の野菜を栽培し、りんごジュースの委託加工もしています。2020年からインターネット通販を始め、全国に農産物を届けています。



#### 成果 耕作放棄地の拡大を抑える

##### 農林水産業

- 2017年4月に認定農業者を取得しました。りんごの栽培面積が増え、年間作業日数は269日に達しました。
- 地域農家や町との信頼ができたため、農地借用・購入の依頼が多く寄せられ、農地面積は175㌥まで拡大。

##### 障害者等

- 平均を大きく上回る平均工賃を実現しました。中には月5万円以上受け取る方もいます。
- 働きぶりが認められ、1人が地域の農業法人に一般就労しました。

##### 地域

- 各種イベントやマルシェに参加し、地域内外の人びととの交流が生まれています。
- 農福連携を理解いただいた近隣農家から「数年後、うちの畑もウィズファームにお願いして障害者の人たちと維持して欲しい」と言っています。

## 松本ハイランド農業協同組合 (長野県松本市)

### モデル的なマッチング制度

無料職業紹介事業をベースに農家と福祉事業所の無料マッチングの仕組みを構築しました。地域農業の振興と障害のある人の働き場所の確保を図っているモデル的な取り組みです。



#### 概要 JAと福祉協議会の強みを合わせる

農業の人手不足の中、地域に根ざしたJAとして、農家と福祉事業所の橋渡し役を担っています。福祉事業所と関係が深い「長野県セルフセンター協議会」と連携し、効率的に農家と福祉事業所をつなげています。

主に低工賃に悩んでいる「就労継続支援B型事業所」に比較的やさしい作業を依頼しています。その内容は、ジュース用トマトの収穫、草取り、マルチシート剥ぎ、剪定枝や長いも棚の片づけなど、技術を要さないが、時間を要する作業メニューです。



#### 成果 障害者と農家双方が取り組みやすく

##### 農林水産業

- 天候等で急に作業スケジュールが変わる農業でスポット的に労働力を確保でき、生産基盤が強化されました。
- 農福連携で耕地面積の維持・拡大、耕作放棄地の発生防止が果たされ、地域農業の振興につながりました。
- JAと農家との関係が深まりました。

##### 障害者等

- 時給制ではなく歩合制にすることで、無理な作業の強制や焦って作業するリスクを予防できています。
- 不作や災害等の生産リスクは農家が負うことで、適正金額で受託でき、工賃が上がりました。月平均で3,000円以上増えた事業所もあります。

##### 地域

- JA農産物直売所でノウフクマルシェを開き、訪れた地域住民や観光客に障害者が活躍する姿をPRできました。直売所へ初めて訪れる障害者の家族も。

## 特定非営利活動法人 HEROES (京都府京都市)

### ノウフク地ビール

全国の福祉事業所と連携して原料を調達し、醸造からラベル貼り、出荷まで障害者が携わる農福連携地ビールの生産プロジェクトは、ノウフクの将来に向かって新たな分野を切り拓いていく取り組みです。



#### 概要 グレートビアアワードで銀賞

2014年1月に生活介護事業所を開きました。重度の障害のある方に仕事を提供するために、17年に酒類製造免許を取得。クラフトビールの醸造と販売をはじめました。ビールの原料は輸入が一般的ですが、完全国産化の「100%ノウフク連携ビール」を目標にしています。

主に自閉症などの知的障害者18人で製造、販売を行っており、うち1人は工程すべてに関わる醸造家レベルの腕です。京都市内を中心に取扱店が50か所超あり、19年度グレートビアアワードでは、銀賞1つ、銅賞2つ、20年インターナショナルビアカップで銅賞1つを受賞しました。



#### 成果 地域課題に協働して取り組む

##### 農林水産業

- 群馬県で栽培している麦は、当初10畝だった作付けが2020年度は1畝に増えました。京都府亀岡市でも栽培がはじまり、同県福知山市で栽培が検討されるなど、休耕地活用に関心が集まっています。

##### 障害者等

- 6次産業化で生産、加工、販売のそれぞれの部門で作業工程が増え、工賃が向上しています。自分の作業が、前後とどのようにつながっているか可視化することで、やりがいや自信を生み出しています。

##### 地域

- 地域にある課題解決に向けて協働し、交流が活発化しています。福祉には、障害者の自立や仕事づくり、農業には、耕作放棄地や人手不足などの問題があります。自治会を再構築し、共生社会を標榜します。

## 特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会 (香川県高松市)

### 農家と施設をマッチング

農業の施設外就労の共同受注窓口として、農家と福祉事業所のマッチングを行っており、その取り組みモデルは全国的に拡大しています。



#### 概要 ノウフクを県内全域に広げ、その窓口となる

2008年頃、香川県のB型事業所の平均工賃が全国的にみて安く、農業者の高齢化が進み、同県の農産物の生産量を維持・拡大することは困難でした。そこで、県とJAが共同で試行し、障害者がにんにくの農作業で活躍できることがわかりました。その取り組みは、瞬間に県内全域に広まりました。2011年に

協議会は、農業の施設外就労の共同受注窓口となり、作業依頼から工賃支払いまでをフォローしています。参加する経営体は、農家のべ258件、施設数のべ269件に拡大しています。さらなる増加と工賃の増額を目指します。



#### 成果 収益と工賃の向上を両立

##### 農林水産業

- 作業単価の2度の値上がりにも関わらず、福祉施設がにんにくの農作業を最優先で協力するため、農家から好感を得ています。
- 2019年度から県に「農福連携技術支援者(農業版ジョブコーチ)制度」が誕生し、参加施設への支援活動を始めました。

##### 障害者等

- 新しい参加施設も増えてきたため、マニュアルを活用したり、新しい作業にも取り組んだりしています。
- 農業収益と工賃が上がっています。

##### 地域

- 通年で作業依頼に応えることができ、施設は安定した支援ができ、地域貢献につながっています。

## 全国農業協同組合連合会大分県本部 (大分県大分市)

### きめ細かいマッチング

コーディネーターとして品目ごとに中心となる事業所とJAをマッチングしています。障害者だけでなく、主婦や学生、ニート、失業者などすべての国民が農業参加しやすい仕組みを目指しています。



#### 概要 農業へのハードルを下げる

JA全農おおいたは、2015年から農業の人手不足に対応するため、共同受注事務局の社会福祉法人太陽の家とパートナー企業の株式会社菜果野アグリとともに労働力支援事業を行っています。作業の細分化・現金日払い・勤務日数の弾力化・現場への送迎によって働くハードルを下げ、多様な人材を確保して

います。2018年度末時点で40事業所がJAと年間契約を結んでいます。障害者と健常者の双方を活用して農家のニーズを満たす外部委託システムが完成。このシステムは18年度の内閣府の「地方創生」事例調査の対象に選ばれました。



#### 成果 障害者と健常者が補い合う

##### 農林水産業

- 農福連携と補完し合う、2019年度の支援者数は、のべ21,349人にのびます。コロナ禍で、生活困窮者や他業界からの人材を受け入れています。

##### 障害者等

- 障害者が担えない部分は健常者がサポートすることで活躍の場が大幅に広がりました。

##### 地域

- 人口減少中の日本では、生産年齢人口をすべて戦力とする必要があります。農業に関わるハードルを下げることで一直線に専業農家を目指せない人でも田園回帰を可能とすることで地方創生を進めています。
- この「大分モデル」を全国水平展開し、農業関係人口を増やします。

## 一般社団法人 松島のかぜ (宮城県松島町)

### 震災復興めざす

東日本大震災からの地域農業と水産業の復興に向けて同法人を設立しました。障害者の就労を確保し、安定化させています。多様な人びとの力によって地域の農業と水産業の再生を図っています。



#### 概要 米・野菜・牡蠣を育てて売る

東日本大震災による障害者の失職と、離農による労働力不足を背景に、松島町と宮城県の指導のもと「一般社団法人松島のかぜ」を2013年8月に設立しました。定員20人の就労継続支援A型事業所として、農業と漁業を営む松島町の有限会社F・F磯崎に労働力を提供しています。F・F磯崎が経営する田畑

合わせた56%の農地と、むき身10トンを生産する牡蠣養殖場で18人が働いています。宮城県庁の産直販売会で米や野菜を対面販売するほか、松島町内のスポーツ施設清掃作業、近隣の農家や牡蠣養殖業者からの委託作業も受けています。



#### 成果 震災前レベルまで回復

##### 農林水産業

- 震災直後、農家数が減り、極端な労働力不足から地域農業の維持が困難でした。農業や漁業を営む有限会社F・F磯崎などへ障害者を定期就労させることで、地域の農業と漁業の産出額は震災前の水準に回復しました。

##### 障害者等

- 農業と漁業で年間を通して作業があり、利用者は5時間勤務で月7～10万円の工賃を得ています。
- 産直販売会やホテルや飲食店への配達などを通じて、接客術を学び、これまで10名の一般就労者が誕生しました。優良な職業訓練の場として広く認知されています。

##### 地域

- 例年、F・F磯崎とともに松島灯籠流し花火大会、みやぎまるごとフェスティバルなどの地域交流イベントに出店や販売で参加し、地域活性化に大きく貢献しています。

## 社会福祉法人 ころん (福島県泉崎村)

### 養鶏場を受け継ぐ

耕作放棄地を再生したり、経営の継続が困難となった養鶏場を継承したりしています。直売所の運営にもかかわることで、障害者の通年での就労が実現されています。食の安全にも取り組み、JGAP 認証を受けています。



#### 概要 オーガニック野菜・鶏の平飼いにこだわる

多機能型事業所を経営しています。主に精神障害者など利用者30人が養鶏のほか、野菜の栽培・加工、直売所の運営などに携わっています。直売所の運営をきっかけに、地域の農家とつながり、自社での野菜生産から養鶏にまで発展してきました。

2009年から再生させた耕作放棄地を含め3.5%の農地で、無農薬・無化学肥料のオクラ、キクイモなど50品目の野菜や水稲を栽培しています。高齢のために継続が困難になった養鶏場を引き継ぎ、平飼いで約1,000羽のニワトリを飼育しています。



#### 成果 大型スーパーにも出荷する

##### 農林水産業

- 2017年に青果物(玉ねぎ・キクイモ・さやえんどう)で、19年に畜産(養鶏)でJGAPを取得しました。
- 地元スーパー4店舗の地場産コーナーに加え、福島の県南・県中にある大型スーパーへ販路を拡大しています。

##### 障害者等

- 農業を通して体力や忍耐力が付き、欠勤や服薬が減ったり、一般就労につながったりする事例があります。
- 安定的に働けるので、収入が増え、家族との関係が良くなっています。

##### 地域

- 直売所は地場野菜などの販売だけでなく、利用者の働く場や地域住民の憩いの場として機能しています。
- 地域イベントへの参加で、ネットワークがより強固に。
- 障害者が一生懸命働く姿を見る機会が増えて、偏見や差別的な態度がほとんどなくなっています。

## 埼玉福興 株式会社 (埼玉県熊谷市)

### 誰も排除しない

ソーシャルファームの理念のもと誰も排除しない組織として、触法障害者なども受け入れています。農家300件分のネギ苗作りをはじめ、水耕や露地で野菜を栽培しています。地域農業の中心的な役割を担っています。



#### 概要 赤城おろし経済圏を成す

最初は個人農家からスタートし、その後、農業生産法人、認定農業者、就労支援B型事業所になりました。持続可能な農業に取り組んでいます。他の6障害者施設とともにネギ苗などの生産を行い、「赤城おろし経済圏」をつくっています。

仕事に人を合わせるのではなく、重度の知的障害、精神、身体、発達障害など、人それぞれに仕事を合わせることですべての障害者に働く場を提供しています。福祉が入って農家を支える、地域になくはならない施設です。



#### 成果 見学者も断らない

##### 農林水産業

- 水耕栽培、施設栽培、果樹、野菜は品目を絞り、年間365日の農作業と出荷を実現しています。
- 地域農家との信頼ができたため、農地の借用依頼を可能な限り受けています。
- 2018年にASIAGAPを取得し、16年には国際オリーブオイルコンテストで金賞を受賞しました。

##### 障害者等

- 自社雇用、特例子会社との連携などで、4人が就職できました。触法障害者2人の受入れ雇用を斡旋し、再犯なしで15年勤務しています。

##### 地域

- 福祉、農業、オリーブ、ソーシャルファーム、教育、グループホーム、社会的企業、共同研究、卒業論文など幅広い目的の見学者を全国から受け入れています。
- 学校給食への納入をはじめました。

## 認定・特定非営利活動法人 UNE (新潟県長岡市)

### どぶろく造りも

薬用作物などの栽培だけでなく、食品加工、農家レストラン、農家民宿、どぶろく造りと幅広く手がけています。障害者をはじめとする多様な人びとの雇用を創出し、地域活性化に貢献しています。



#### 概要 12事業に広がる啓発事業も

2011年4月、障害者地域活動支援センター UNEHAUSを、その後UNEを設立しました。2012年から135㌦の農地で本格的に農業をはじめました。職員7人、障害者や高齢者、生活保護受給者ら8人が、米や野菜の栽培のほか、「福祉市民体験農園 OasisR」の運営など12事業に取り組んでいます。市内の建設

関連会社に依頼し、「特例子会社夢ガーデン」が2012年3月に設立。聴覚障害者1人が就職しました。同社ではヨモギや花ハス栽培、野菜の加工で協働しています。2020年度にその啓発のため農福連携サポーター養成講座を開講。



#### 成果 クロモジ栽培で山林を整備する

##### 農林水産業

- 2012年にNPO法人として県内初の農業参入。認定農業者となり、中山間地域の農業の担い手になっています。
- 2015年からクロモジの栽培に加え、計画的に山林のクロモジを採取し、医薬品製造会社に出荷しています。
- 2017年からはクロモジ茶とクロモジオイルを製品に。その収益化は、山林の整備に役立っています。
- ヨモギの導入は、誰もができる作業を増やしました。条件の悪い農地も活用できています。

##### 障害者等

- 多角的な事業によって、障害者や高齢者などそれぞれの特性に応じた作業ができています。

##### 地域

- レストランや民宿の機能があると、地域外からの訪問者やインターン生も利用します。交流機会の増加が、利用者の生きがいにもつながっています。

## 特定非営利活動法人 ピアファーム (福井県あわら市)

### 直売所も経営

耕作放棄地の再生や、後継者不足で悩む梨園を受け継ぎ、梨とぶどうを栽培しています。直売所を運営することで、障害がある人の働く場所の確保と高工賃を実現しています。



#### 概要 加工・輸出で6次産業化を果たす

2002年から坂井北部丘陵地の耕作放棄や梨園の廃業の課題解決と障害者就労の場づくりを目的に挑戦をはじめました。果樹栽培とともに、農産物販売にも力を入れて、高収益化を図っています。2か所の就労継続B型事業所を運営し、直売所とスーパーマー

ケット経営しています。梨園では幸水など12品種、10年からは22品種のぶどう栽培を開始。梨のゼリーやジュースを製菓業者と共同開発したり、受託製造したりしています。アジアGAP認証を取得し、ヤマト運輸の支援で東南アジアへ梨やぶどうの販路を拡大しています。



#### 成果 放棄地を再生し、梨園を引き継ぐ

##### 農林水産業

- 耕作放棄地の再生によって農地を集約しました。2㌦を再生し、後継ぎのない梨園を引き継ぎました。
- 11年9月あわら市の「認定農業者」になりました。

##### 障害者等

- 果樹栽培と食品加工、その販売によって、働く場所が確保でき、工賃が増えました。

##### 地域

- 特産品である梨を受け継ぎ、新たにぶどう栽培に取り組むことで、地域活性化に貢献しています。
- 直売所では160の契約農家の農産物や加工品を販売。地産地消と商店街のにぎわいに一役買っています。
- 商工会や観光協会と連携して6次産業化、観光化へ踏み出しています。

## 株式会社 シルクファーム (鳥取県米子市)

### 多様な連携を図る

耕作放棄地の再生を行うとともに、NPO法人山陰福祉会と協力して施設外就労の確保を図っています。さらに株式会社クボタと共同でスマート農業に取り組むなど多様な連携を実践しています。



#### 概要 スマート農業で環境を整える

2015年度から耕作放棄地再生事業をはじめました。米子市内の耕作放棄地25㍍を整備・改修して農場や関連施設を設置。NPO法人山陰福祉の会が運営する障害者就労継続支援B型事業所の利用者が、農産物の生産と選果・パック詰めをしています。

19年度に株式会社クボタの協力を得て、障害者就労の利便性・安全性・効率性を高める目的でスマート農業システムを導入しています。グループ会社の株式会社KOGANEは、シルクファームでできた農作物を原料とするスイーツを開発し、境港市の飲食店3店舗で販売しています。



#### 成果 ユニバーサル就労で農地を再生

##### 農林水産業

- 2015年度から米子市弓ヶ浜半島で「ユニバーサル就労による耕作放棄地再生事業」を行い、現在までに25㍍の耕作放棄地を再生しています。

##### 障害者等

- 連携する就労継続支援B型事業所ののべ1,855人が就労し、19年度の工賃時給は前年度比3.5%増えました。

##### 地域

- 新たに「いちご観光農園」「ミニトマト園」「さつまいも圃場」を整備しました。新しい特産品は、高齢者、障害者を含む7人の地域雇用を生み出しました。
- シルクファームの農産物を原料としたスイーツは、境港市「水木しげるロード」内の3店舗で販売し、観光振興に貢献しています。

## 社会福祉法人喜和会 障害者支援施設 太陽の里 (鳥根県出雲市)

### 輝く地域の一員

障害者が「地域の一員として一人ひとりが輝ける」ことを目的に、特産品である出西生姜の産地維持、作業を請け負う「せわやき隊」などに取り組む、地域から厚い信頼を寄せられる存在になっています。



#### 概要 せわやき隊が地域を支える

開所当時から農業を行っていましたが、農業以外の木工などを辞め、2012年から農業に専念しています。利用者37人、職員11人の就労継続支援B型事業所です。出西生姜の栽培を農家から引き継ぎ、また「せわやき隊」として収穫調整、堆肥散布などの作業を請けています。

近隣の4つの就労支援事業所と共同でトマトのミックスソースを生産しています。安定生産や作業の分散を目的に、トマト栽培やジュース作りの工程は委託しています。生活介護では、野菜の袋詰め、洗浄、白むき、規格分けなどの調整作業を行っています。



#### 成果 作付面積は地域トップクラス

##### 農林水産業

- 開設以来34年、農業を真面目に続けることで地域で生産者として認められるようになりました。
- 受託農地の拡大に伴い、栽培品目を増やしています。玉ねぎ170㍍・キャベツ80㍍・白ネギ30㍍は、地域トップクラスの作付面積です。
- 「せわやき隊」は高齢農家や地元農事組合からの依頼が増え、その迅速な対応は好評です。

##### 障害者等

- 農作業の工程を細分化することで、それぞれの得意分野で活躍できるようになりました。
- 2019年度の平均工賃は25,000円超で、県平均を大きく上回りました。月7万円以上の利用者もいます。

##### 地域

- 地域の清掃活動や農業にかかわるイベントに積極的に参加したり、「地域交流会」を開いたりしています。

## ノウフク・アワード2020 表彰式案内



昨年度のノウフク・アワード2020表彰式&ノウフク・シンポジウムの模様は、URLまたはQRコードからご覧いただけます。

●前編

<https://youtu.be/RaGjS19EL0c>



●後編

<https://youtu.be/Dpiy6SQkiB0>



### 審査員紹介



中嶋 康博

東京大学大学院  
農学生命科学研究科 教授



濱田 健司

一般社団法人JA共済総合研究所  
主席研究員



松森 果林

ユニバーサルデザイン  
アドバイザー



村木 厚子

津田塾大学  
総合政策学部 客員教授



米田 雅子

東京工業大学  
環境・社会理工学院特任教授

### お問い合わせ

#### 農福連携等応援コンソーシアム事務局

■ 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室  
〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1  
電話 03-3502-8111(内線5448)  
メール noufuku@maff.go.jp

■ 一般社団法人日本基金  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-4 大京ビル松住町別館401号  
電話 03-5295-0070 FAX 03-6206-0117  
メール info@nipponkikin.com

## 農福連携等応援コンソーシアム

### 設立の経緯

2019年6月に農福連携等推進会議（議長：内閣官房長官）において決定された「農福連携等推進ビジョン」に提起されている課題の1つ「農福連携が広がっていかない」に対応するため、2020年3月に農福連携を全国的に広く展開させ、各地域において農福連携が定着していくことを目指して「農福連携等応援コンソーシアム」が設立されました。

このコンソーシアムは、全国初の官民連携ノウフク応援団として、国・地方公共団体、関係団体等や、経済界や消費者、さらには学識経験者等の様々な関係者を巻き込んで、国民的運動として農福連携等を応援する取り組みであり、2022年2月現在、約170の企業・団体の方が「ノウフク」の活動趣旨にご賛同いただき、活動の幅を広げています。

### 農福連携等応援コンソーシアムへの参加

本コンソーシアムでは、①「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開、②農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催、③農福連携等に関係する主体の連携・交流の促進などの活動を関係団体及び関係省が連携して行っていくこととしており、その活動に当たり、本コンソーシアムの趣旨に御賛同いただき、参加いただける団体や企業の方の入会を募集しております。

会費等は無料ですので、この機会に取組の輪の拡大に向けて、入会をお待ち申し上げております。（全国団体は会員、個別企業・団体は賛助会員となります。）

### 入会方法

コンソーシアムに関する詳細は、[ノウフクWEB](#)をご覧ください。

コンソーシアムへの入会をご希望される団体や企業の方は農福連携等応援コンソーシアム規約に同意いただき、以下申込書に必要事項を記入の上、農林水産省農村振興局都市農村交流課 農福連携等応援コンソーシアム事務局までお申し込みください。幹事会の承認を得て、コンソーシアムにご入会いただくことができます。

● 農福連携等応援コンソーシアムについて

[https:// noufuku.jp/consortium/](https://noufuku.jp/consortium/)



農福連携等応援コンソーシアムの規約、入会のご案内・申込書は上記ページからダウンロードいただけます。